Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2016年５月）

発表日：2016年７月７日（木）

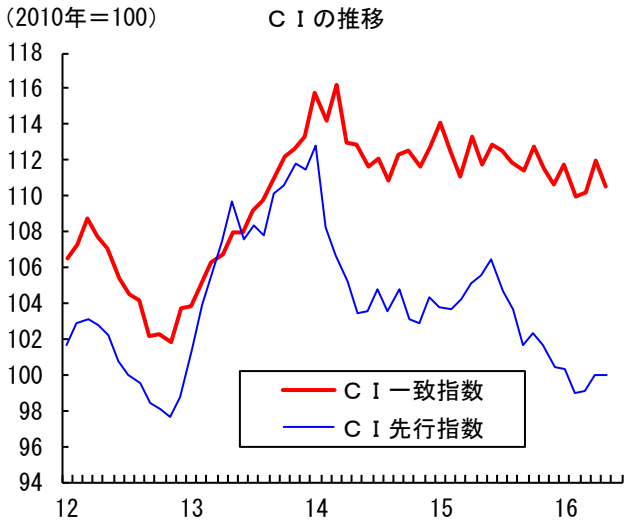
～５月分は低下だが、６月分で基調判断が「改善」へ上方修正される可能性あり～

第一生命経済研究所　　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ＣＩ一致指数は３ヶ月ぶりの低下

内閣府から公表された 2016 年５月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差▲1.5 ポイントと３ヶ月ぶりに低下した。３月は＋0.2 ポイント、４月は＋1.8 ポイントと２ヶ月連続で改善していたが、５月分で上昇分の多くを吐き出す形になった。ＣＩ一致指数は、引き続き一進一退の足踏み状態にあると判断される。なお、５月の内訳では、鉱工業生産指数、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数など生産関連系列のマイナス寄与が大きい。

また、５月のＣＩ先行指数は前月差横ばいだった。先行ＣＩは 15 年６月をピークとして大幅に落ち込んでいたが、足元では下げ止まりつつあるようにも見える。改善の兆しとして前向きに受け止められるだろう。内訳では、新規求人数と住宅着工床面積の押し上げ寄与が大きい。



（出所）内閣府「景気動向指数」

○ 基調判断は「足踏み」で据え置き。６月分で「改善」に上方修正される可能性も

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。

ただし、ＣＩ一致指数の３ヶ月後方移動平均の値は、４月分が＋0.06、５月分は＋0.17 となり、ギリギリではあるが２ヶ月連続でプラスになっている。基調判断が「改善」に上方修正されるための基準は「３か月以上連続して、３か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」であるため、もし８月５日公表の６月分のＣＩ一致指数がわずかでも前月差プラスになれば、上方修正の基準を満たすことになる。６月分がプラスになるかどうかは微妙なところだが、もし基調判断が「改善」に上方修正されるようであれば、景気持ち直しの動きとして注目される可能性があるため注意しておきたい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。